

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2371400801
法人名	有限会社 マインズ
事業所名	グループホーム池上台
訪問調査日	平成 20 年 8 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 7 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2371400801
法人名	有限会社 マインズ
事業所名	グループホーム池上台
所在地	名古屋市緑区池上台三丁目66番地 (電話) 052-891-5516

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価確定日	平成20年10月7日

【情報提供票より】(H20年 7月31日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.6

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り (耐火建築)	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,000 円	その他の経費(月額)	31,000 円	
敷 金	有(100,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(2年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(7月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	緑市民病院・宮下歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街にある鉄筋2階建てのグループホームであり、デイサービスとの併設である。ゆとりのある構造で、洒落た内装が温もりを感じさせる。職員は、事業所の理念のもとに利用者・家族に安心と満足のいくサービスの提供を心がけており、家族の信頼を得ている。また、利用者に対応する設備がされており重度の身体不自由や内部障害のある利用者には特殊浴槽を用いての入浴が実施されている。さらに、利用者の重度化や終末期に備えて介護と医療の協力体制がある。地域との連携に関しては、地域の小・中学生の体験学習や地域のボランティア受け入れにも積極的である。なお、施設長が地域の認知症高齢者家族介護教室の講師を勤めるなど、地域への貢献と交流に努めている。職員は介護に従事する者としての自覚を持ち、研修にも積極的に参加している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の理念について、具体的な地域密着型の理念は掲げていないが、職員は事業所の理念のもとに、利用者の地域での生活の継続を支援している。介護計画については、まだ改善が不十分な点もあるが、家族の意見や要望は概ね把握しており、個人ファイルにも記録され、カンファレンス等も実施しているので、話し合いを重ね、それらを活かした介護計画の作成を期待する。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組み、それを施設長がまとめた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はおおむね2ヶ月毎に実施している。出席者は利用者の家族や自治会長、他グループホームの管理者、学識経験者である。ホームの現状や活動予定を報告し、意見交換を行い、ホームへの理解を深めてもらうように努めている。そこでの意見はサービスの質の向上に活かしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には必ず声をかけ、意見や苦情など何でも言ってもらえるような場面作りを心掛けている。また、ホームの掲示板に飾られた写真やアルバムなど、利用者の笑顔をたくさん見てもらえるように工夫している。職員は利用者を家族同様に思いケアに取り組んでいる。家族とは良好な関係である。家族からの意見や要望、苦情は会議で話し合い検討し、運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	重度の利用者が多く外出が難しい状況ではあるが、地域の盆踊りに参加し、散歩や買物等の外出時には、近隣の人と挨拶を交わし、地域の人々にホームで暮らす利用者への理解を少しづつ深めてもらっている。また、地域の小・中学生の体験学習や合唱、フラダンス等のボランティアを受け入れ、地域との交流を図っている。施設長は地域包括支援センターが主催する認知症高齢者の家族介護教室の講師を担当し、地域に協力している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念のもとに、利用者や家族の視点で、安心と満足のサービスの提供を心掛けている。地域密着型としての新たな理念は掲げてはいないが、地域密着型としての意義を踏まえ、職員同士が協力しあい、利用者の地域での生活の継続を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は1階玄関と2階ホーム入口に掲示されており、職員採用時には理念を伝え理解してもらうようになっている。また、会議や日常のケアの中で、理念に触れ意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	重度の利用者が多く外出が難しい状況の中、地域の盆踊りに参加し、散歩や買物等の外出時には、近隣の人と挨拶を交わし地域の人々にホームで暮らす利用者への理解を少しずつ深めてもらっている。また、地域の小・中学生の体験学習や合唱、フラダンス等のボランティアの受け入れにより、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組み、それを施設長がまとめた。外部評価については、職員それぞれが評価結果を意識してケアに取り組んでいるが、改善点についての具体的な話し合いがされていない。	○	外部評価を活かし具体的な改善や見直しに取り組むよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はおおむね2ヶ月毎に実施している。出席者は利用者の家族、自治会長、他グループホームの管理者や学識経験者である。ホームの現状や活動予定を報告し、意見交換を行い、ホームへの理解を深めてもらっている。そこでの意見をサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が、区役所の主催する地域包括ケア推進会議の委員として会議に出席し、ホームの現状を伝え情報交換を行っている。また、市の担当者にホームの現状を把握してもらえよう働きかけ、連携をめざしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には日々の様子や健康状態などを伝え、掲示板に飾られた写真やアルバムなどを、いつでも見られるようにしてある。また、毎月請求書と共にコメントを添えた写真を送付している。金銭については残金を知らせ、希望者には明細を伝えている。	○	金銭については、家族に満足してもらえるよう、明細を添えての報告を望む。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時には必ず声をかけ、意見や苦情など何でも言ってもらえるような場面作りを心掛けている。また、電話連絡の際にも要望などを聴くように心掛けている。家族からの意見や要望は、会議で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は殆どない。職員は2ユニット共通でケアに携わっており、すべての利用者との関係ができていく。また、離職の際には引継ぎの時間を十分にとり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や日常業務に関わる研修など、職員が順番に段階に応じた研修に参加出来るように、勤務の調整を行ったり各種研修の情報を伝えている。介護福祉士等の資格を持ち働いている職員が多く、質の高いケアに取り組めるように、日々努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は定期的に、なごや南東部GH交流会に参加し勉強会などを通して他施設の職員と交流を図っている。現在14施設が参加しており、年間計画を立てて、勉強会を行なっている。施設長が現在の交流会の会長を務めており、積極的に交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状態や家族の要望を聴き、介護保険制度によって、できることとできないことを具体的に説明している。見学は随時、空室のある場合には体験入居が可能である。入居後も家族が居室に泊まったり、利用者が外泊・外出するなど、ホームに安心して馴染めるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ができる役割や楽しみを見つけることができるように声を掛けるなど配慮している。また、利用者から職員がいたりや励ましの言葉などを掛けられることがあり、お互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動・表情・目の動きや生活歴から察したり、家族に聞くなどし思いや意向の把握・検討に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見・要望を反映させた介護計画を作成しようとしている。家族の要望・意見の把握は概ねできており、利用者ごとの個人ファイルには記録されているが計画書には記入欄がない。また評価の欄もなく目標達成が解りづらい。家族確認のできていないものもある。	○	今後は意見・要望や評価の記載ができる介護計画書の作成と、家族への説明をきちんと行なって欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに見直すこととしている。ケース会議やカンファレンスの実施をしているが、介護計画の見直し作成に十分に活かされていない。	○	ケース会議やカンファレンスの内容を活かし、3ヵ月ごとの見直し作成を行なって欲しい。目標達成や今後に残された問題などの評価の記載をし、現状に即した介護計画の作成を望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、胃瘻造設や経管栄養が必要となった場合にも対応できる体制がある。重度化した場合の入浴にも特殊浴槽で対応が可能である。また、利用者・家族の状況に応じ、通院や外出等の支援体制もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の9割が協力医をかかりつけ医とし、それ以外は主として家族が受診対応している。内科の協力医による月2回の往診がある。また、今月より皮膚科の往診も可能となった。受診結果の情報共有はできている。薬局を決め薬剤管理ができる関係作りをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期の基本的な方針については家族等に説明している。職員は利用者の個別的な状況によってホームで対応できることの限度を家族や主治医と連携を図り話し合い、利用者個々の方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護と守秘義務について理解している。書類は鍵付きの保管庫に収納し、外部への持ち出し禁止など取り扱いに注意している。利用者に対して誇りやプライバシーを損ねるような対応はしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合ではなく、利用者の希望に可能な限り柔軟に対応している。意思の疎通が困難な利用者には日々の関わりを通して感じ取るよう心掛け対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼・夕食は厨房で調理されたものをホームで盛り付けている。利用者と職員と一緒に料理の本を見て希望の献立にしてみたりすることもある。利用者は盛り付けや配膳・下膳等できる事を行なっている。職員は利用者と一緒に食事はしていないが、食事を促すなど言葉を掛けたり、食べこぼしのサポートや食事介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日9時から17時頃まで入浴可能である。(機械浴は月曜から土曜でデイサービス利用者と重ならないように対応)利用者の希望や体調により個別に対応している。また、入浴拒否の利用者にはタイミングや声の掛け方で、入浴してもらえるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫、編物、洗濯物のたたみや掃除、読書、新聞購読、外出等楽しみや気晴らしの支援を心掛けている。フラダンスや合唱、日舞のボランティア訪問も楽しみの1つとなっている。花見の時期には希望者で外食に出掛けることもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にできるだけ副うようにしている。介護度が上がり外出しづらい利用者には、ベランダや駐車場で外の気浴や日光浴の支援をしている。また、利用者の状態によっては裏庭にある畑へ職員が収穫に誘うこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。職員は利用者を見守り、エレベーターに乗る利用者には声を掛け一緒に乗るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に基づき避難訓練を利用者と共に実施している。耐火建築物で自動火災報知器や非常通報装置等の防災設備がある。また、カーテンやクロス等も防火性のあるものを使用している。数日分の非常食糧・飲料水等の備蓄もあり、災害時にはホーム内待機としている。(建物損壊時や危険時を除く)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立であり、栄養バランスは概ね取れている。食事・水分摂取量の把握もされている。水分摂取量はユニットごとに一覧表を掲示し摂取の都度記入しており、職員が把握しやすく利用者にも分かり易いため不足しがちな人には水分摂取を促しやすい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓が数カ所設置しており、明るく換気もできている。どこもゆったりとした広さがあり、場所によって壁紙を変えている。居間やエレベーター前にはソファーや椅子を設置し、利用者は休息をとることができる。居間にある畳スペースでは横になったりでき、くつろぎの場となっている。壁には行事の写真を飾るなどして、季節を感じることもできる様に工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットと洗面所が設置され、ゆったりとした広さがある。家族と一緒に泊まることもできる。家族の写真や使い慣れた家具が持ち込まれ、畳を敷いている利用者もいる。利用者が居心地よく過ごすことができるように工夫している。		